

平成27年4月5日(日)

沖縄タイムス(2) 西普天間70年ぶり返還 地権者ら式典で喜び

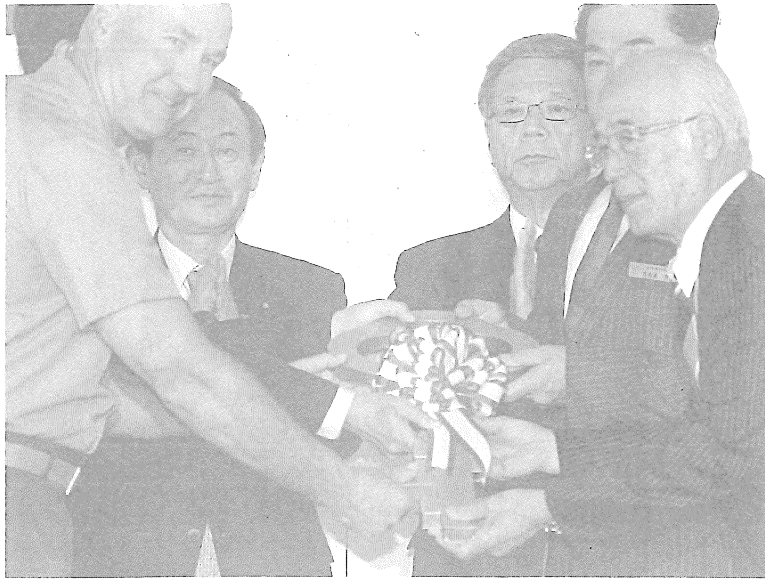
西普天間70年ぶり返還

地権者ら式典で喜び

【宜野湾】3月末に返還された米軍キャンプ瑞慶覧の西普天間住宅地区で4日、返還式典が開かれ、菅義偉官房長官、翁長雄志知事ら日米の関係者と地権者

代表計100人以上が沖縄戦後の接収以来70年ぶりとなる土地回復を喜んだ。菅長官は式典で「西普天間の返還が新たな沖縄発展

(1面参照)



西普天間住宅地区の返還式典に参加する菅官房長官(奥左)と翁長雄志知事(同右)＝4日午後、宜野湾市

のモデルケースになるようしつかり(跡地利用)計画を前に進めたい」と述べ、政府が跡地利用に向けた支援を継続する姿勢を強調。また翁長知事は「跡地利用は、宜野湾市の振興はもとより県、国の発展に貢献する」とし、国や市と協力して開発に当たるとした。

地元を代表してあいさつした佐喜真淳市長は「将来返還される普天間飛行場の先行モデル地区としての取り組みを継続していく」と述べ、跡地利用計画の7月決定に向け、地権者らとの調整を急ぐ考えを示した。

西普天間地区は約51畓あり、米軍嘉手納基地より南の基地統合計画では最初の大規模返還。返還地に琉球大学医学部や同付属病院などを核とする国際医療拠

点、普天間高校を移転して形成する人材育成ゾーンなどを配置する方向で調整が進められている。国が2、3年をめどに地区内の不発弾や土壌汚染などを取り除く支障除去を行った上で開発に着手する予定だ。